

荒川区長選挙 公開討論会 政策比較

区政に対する基本的な考え方

町田たかし

もぎ正道

たきぐち学

目指すべき将来像

荒川区長選挙への立候補にあたり、私は「荒川区をもっと良いまちにしたい」という強い思いを胸に、このたび政策を掲げました。このまちで育ち、このまちを心から愛する私にとって、皆さまが毎日安心して暮らせ、未来に希望を持てる街づくりが何よりも大切です。荒川区は子供達、高齢者が元気に暮らし、昔ながらの人情が息づく街です。私はこのまち特有の「住みやすさ」を守り、発展させていきます。区の将来を見据えて常に改革を進め、昨日より今日、今日より明日がより良くなるよう、荒川区の最大の財産ともいえる「地域力」を育てていきます。

人にやさしい、多様性が生かされる、持続可能なまち・荒川区をめざす！

社会の変化、価値観の多様化に対応した、きめ細かい行政サービスが求められています。子どもからシニアまでの「世代をつなぐ」、住民同士の「地域をつなぐ」、区民・行政・企業・団体など「みんなの力をつなぐ」の3つのつなぐで、区民が安心して住み続けられ、生き活きと活躍できる「新時代のあらかわ」をつくりまします。

現状認識

全国的な問題となっている少子高齢化は、荒川区も例外ではありません。子育て世代の負担の解消や高齢者が安心して暮らせる社会の実現、いつ発生してもおかしくない災害への対策や国や都が推し進めているDXへの対応など、区には様々な対応が求められています。さらに、将来的な施設の建替えや改修等、大きな財政出動も控えています。

大地震などの災害に都内で最も弱い街になっている。高齢化の進行と一人暮らし世帯の増加への対応。家賃やマンション価格の高騰など「住まいは人権」が大きく脅かされている。事業所の減少など区内産業の衰退。子どもたち（高校生も含め）の居場所（遊びの空間）が決定的に足りない。…など課題山積。

危険度の高い木造密集地域が多数あり、荒川氾濫では区内全域が浸水想定地域に指定されている。自然災害への備えを着実に進めていくことが必須。高齢化率は高く、若年層は減少傾向となっている中、シニア政策や子育て支援も重要。集合住宅が増加し、コロナ禍も加わり、災害時も含む地域コミュニティの強化も課題です。

解決したい課題

様々な悩みを抱える子供や若者への支援、高齢者や障がい者の福祉の向上など、生活にお困りの方への支援を最優先に、その他、大規模災害への備えなど区民の安全に関することを確実に進め、更にデジタル技術を活用した行政の効率化や区民サービスの向上、施設の建替え等のための財源の確保など、区の課題は山積しています。

(2)の課題に正面から取り組む。①木造密集地域の整備事業を促進②家賃助成などで住宅困窮者の支援③区独自の福祉を充実し、誰もがその人らしく暮らせる街へ④子育ての負担をさらに軽くする支援と、保育士増員で豊かな保育実施⑤コミュニティバスなど地域公共交通に区の財政も投入して整備…など

上記をはじめとする様々な課題に対して、重点的に進める9つの政策分野を掲げ、「新時代のあらかわ」実現に向けて取り組んでいきます。

第1優先の
比較

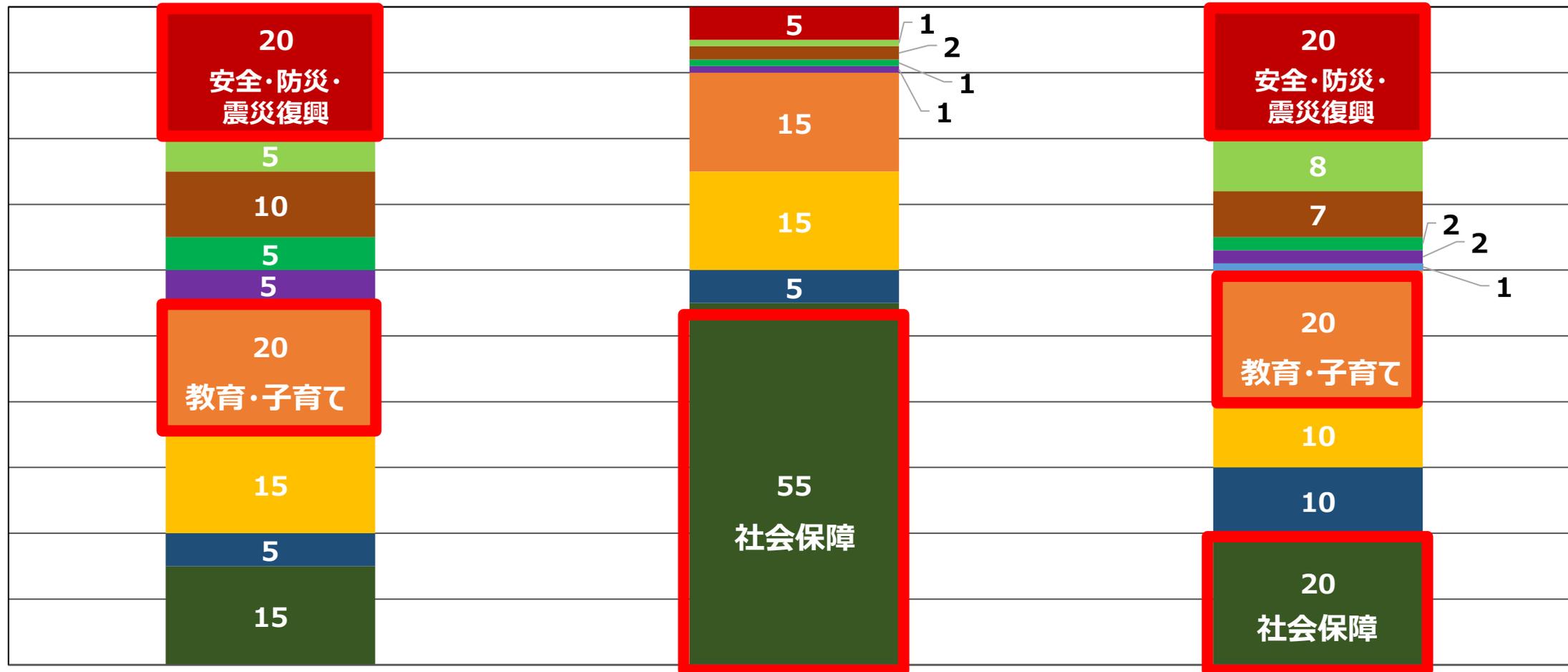
荒川区長選挙 ネット討論会 政策比較

政策分野の注力度（予算を100ポイント持っているとしたときに、各分野へ）の配分

町田たかし

もぎ正道

たきぐち学



- 社会保障
- 産業政策
- 社会資本整備
- 教育・子育て
- 農林漁業
- 税財政・財政再建
- 労働
- 環境・エネルギー
- 行政・議会改革
- 安全・防災・震災復興

第2優先の
比較

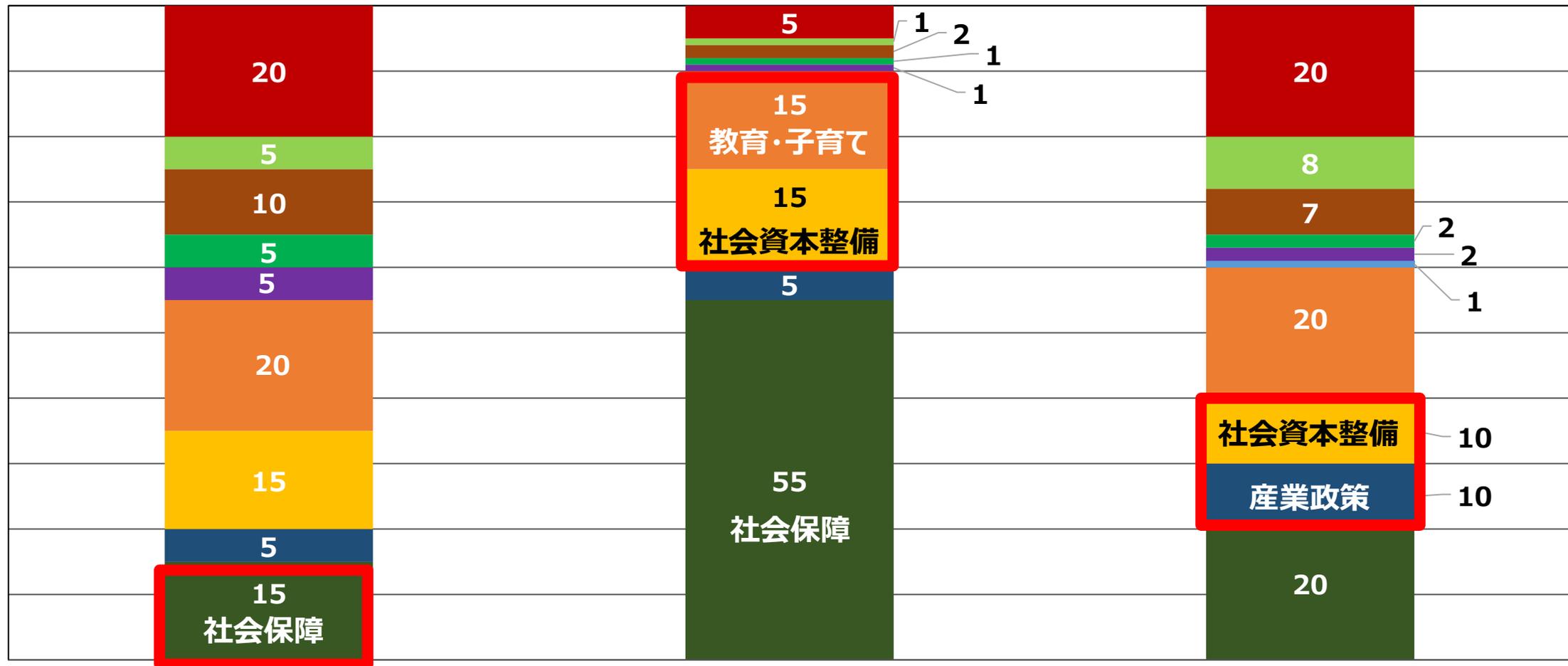
荒川区長選挙 ネット討論会 政策比較

政策分野の注力度（予算を100ポイント持っているとしたときに、各分野へ）の配分

町田たかし

もぎ正道

たきぐち学



- 社会保障
- 産業政策
- 社会資本整備
- 教育・子育て
- 農林漁業
- 税財政・財政再建
- 労働
- 環境・エネルギー
- 行政・議会改革
- 安全・防災・震災復興

課題を解決するための重要政策

第1優先

荒川区長選挙 公開討論会 政策比較

課題を解決するための重要政策 第1優先（「政策分野の注力度」の中で選ぶ）

町田たかし

もぎ正道

たきぐち学

政策	子育て支援・教育の充実	区独自の物価高騰対策と独自の福祉拡充	防災対策の推進
数値目標	—	子育ての負担ゼロ、老老介護などの解消など	—

荒川区長選挙 公開討論会 政策比較

課題を解決するための重要政策 第1優先（「政策分野の注力度」の中で選ぶ）

町田たかし

もぎ正道

たきぐち学

期限

—

4年の任期中に

—

分野

子育て支援・教育の
充実

社会保障, 社会資本整
備, 教育・子育て

安全・防災・震災復興

荒川区長選挙 公開討論会 政策比較

課題を解決するための重要政策 第1 優先（「政策分野の注力度」の中で選ぶ）

町田たかし

もぎ正道

たきぐち学

予算

国や都の補助金を最大限活用し内容によってはクラウドファンディング等も検討

毎年で10億円規模の予算措置

—

手段

子ども家庭総合センターで児童相談所業務を行い、地域で子どもを見守る体制の強化を図る。具体的には職員の育成や支援体制の更なる強化を図るとともに、子どもや若者の意見を十分に反映させながら、子育て支援策を進めていきます。また、幼児教育の充実やヤングケアラー対策など時代に即した支援策も推進していきます。また教育に関しては「荒川区の子どもは荒川区で育てる」を理念のもと区立小中学校の教育費の無償化を促進します。

23区一高い介護保険料の引き下げ、国や都の制度だけで対応できな介護、福祉、子育てなどのサービスを洗い出し、区の独自財源で手当していく（例介護保険改悪で削減された生活援助などを区の制度で補う）。「子どもたちにもう一人保育士を」などの視点で区独自の増員。学用品の無償化など…

ひとりの命も犠牲にしない 倒れない、燃えない街をつくるため、耐震化・不燃化を着実に進め、初期消火力を高めしていくことが重要。特に新耐震2000年基準への対策、さらなる初期消火体制の強化を図る。また、災害時に正確な情報が伝達できるよう防災アプリの機能充実など、防災DXを推進。

課題を解決するための重要政策

第2優先

荒川区長選挙 公開討論会 政策比較

課題を解決するための重要政策 第2優先（「政策分野の注力度」の中で選ぶ）

町田たかし

もぎ正道

たきぐち学

政策

安全・安心の取組

防災・福祉の
まちづくり

地域公共交通の再構築

数値
目標

—

住宅耐震化、屋内安全
対策（家具転倒防止、
感震ブレーカーなど）
など

—

荒川区長選挙 公開討論会 政策比較

課題を解決するための重要政策 第**2**優先（「政策分野の注力度」の中で選ぶ）

町田たかし

もぎ正道

たきぐち学

期限

—

当面任期中の4年間

2030年まで

分野

安全・安心の取組

防災・福祉の
まちづくり

社会資本整備

荒川区長選挙 公開討論会 政策比較

課題を解決するための重要政策 第2 優先（「政策分野の注力度」の中で選ぶ）

町田たかし

もぎ正道

たきぐち学

予算

国や都の補助金を
最大限活用

毎年20億円規模で

利用料・使用料・
一般財源

手段

防災対策については、区民と防災組織、関係機関との連携を強化し、災害時の対応力の向上に取り組んでいきます。そのために防災指令センターをつくります。また水害対策では、局所的な大雨にも備えた避難情報等の迅速な発信を行い、避難所運営や災害医療体制の充実を進めていきます。また、区内の木造住宅密集地域の不燃化の推進や建物の耐震化の助成の拡充を図ります。また区道私道の無電柱化を強力に進めてまいります。

住宅耐震化・屋内安全対策の本気の取り組みで100%実施。そのために住み替え住宅、高齢者住宅の増設、簡易耐震工事への助成、屋内安全対策補助額の抜本的な増額、コミバスなど地域公共交通整備、銭湯の支援や空白地機への設置検討など

区民の足を便利に、身近な交通手段の再構築。コミュニティバスの縮小などもあり、既存交通網を補完する見直し策は必須。特にシェアサイクル等の利用が困難な、高齢者や乳幼児連れの方等の移動手段確保に向けて、生活拠点への移動ルートのニーズを把握し、コミバスやグリス口等、あらゆる選択肢を視野に取り組みます。

課題を解決するための重要政策

第3 優先

荒川区長選挙 公開討論会 政策比較

課題を解決するための重要政策 第**3**優先（「政策分野の注力度」の中で選ぶ）

町田たかし

もぎ正道

たきぐち学

政策

健康・福祉の増進

民営化路線見直し、区
の責任で公共サービス
再構築

子育て支援策の充実

数値
目標

—

現行の共公共サービスの
指定管理、委託部分
の人件費の引き上げ
など

—

荒川区長選挙 公開討論会 政策比較

課題を解決するための重要政策 第**3**優先（「政策分野の注力度」の中で選ぶ）

町田たかし

もぎ正道

たきぐち学

期限	—	任期4年中に目途を付ける	2026年
分野	健康・福祉の増進	社会保障, 行政・議会改革	教育・子育て

荒川区長選挙 公開討論会 政策比較

課題を解決するための重要政策 第**3**優先（「政策分野の注力度」の中で選ぶ）

町田たかし

もぎ正道

たきぐち学

予算

国や都の補助金を
最大限活用

毎年7億円程度

2,500万円

手段

高齢者のフレイル予防のため「栄養」「運動」「社会参加」の3つの柱を軸に、各種の対策を推進していきます。身体活動の維持・向上や、イベント形式の認知機能のチェックなどを実施し、社会参画の促進を図ります。また、重度の障がい者向けのグループホームの設置について、用地の確保等について進めていきます。

保育園、学童クラブなどこれ以上の民営化の中止、公契約条例の制定で公共サービス、公共事業に携わる労働者の抜本的処遇改善など

おむつ1枚から始まるやさしいまち。小さな配慮から包括的な支援へと拡げていくため、まずは子育て施設において、おむつ・お尻ふきの無料提供と回収BOX設置を実施し、手ぶらで楽しめる子育て施設を実現。提供おむつの一部は、サイズが合わなくなったおむつの寄付から。